

「庄山大輔、WPT 初のサムライ登場」

彼は日本でパデルコーチとして働き、過去 3 年のチャンピオンである。今回、Valladolid Master の前予選に出場する。

日本パデル協会では、過去何年も中塚浩二会長が精力的な活動を行い、日本のパデルの国際的なプレゼンス強化を推し進めている。

アルゼンチン出身で在マドリッドの Maximo Costellote 氏は 20 年以上のプロ選手のコーチとしてのキャリアを持っており、日本人選手たちの技術アドバイザーとしても活躍中。そして、その日本人プレーヤー達は、最強のプレーヤーかつアジアチャンピオンである選手を Valladolid Master の前予選に送り込むことにより、今週新たな扉を開ける。

「この選手は何年も前からパデルに興味を持っていて、今では日本のベストプレーヤーである。しかし残念なことに、日本ではまだ競争と言える程の環境は無い。それを考えれば彼にとって前予選といえども参戦すること自体が大きな成果であり、夢なのだ。」何年も前から日本でクリニックを開き、庄山選手とは日本でもマドリッドでも（彼は既に何回かマドリッドを訪問している）教えてきた Costellote 氏はこう断言する。

予選への参戦を可能とするために、日本パデル協会は公式に要請を行って特別招待枠を獲得することに成功した。何故ならプロツアーに参戦するためのポイントはまだ保有していないからである。彼は、これもまた WPT 初参戦となるマドリッドの Hugo Garcia 選手とペアを組み参戦する。

「強い選手たちと戦うのがとても楽しみです」と庄山選手は言う。彼は Las Rozas にある Duet クラブでこの 2 週間 Costellote 氏とトレーニングを積んでいる。元々テニスをやっていたので「テニスの経験があれば容易に上達できるのではないかと」考えていたが、WPTMaster ファイナルを熱心に見ているうちにパデルとテニスは別のスポーツであることを確信した。43 歳、左利き、過去 3 シーズン日本のベストプレーヤーとしての地位を確保し、日本代表として国際試合にも参加した彼は、コーチ兼選手としてパデラー筋に専念するため、テニスコーチの職ならびにテニスから完全に離れることにした。

Maximo Costellote 氏が言うには「前予選とはいえ、彼が勝つのは厳しい。しかしながら、日本からは普通なら参加できないトップレベルの試合に参加するのは非常に大きな経験になるはずである。」庄山選手はまるで初心者のごとく気持ちを高ぶらせ、プロパデル界の史上初のサムライという名誉ある役割を果たすべくトレーニングを楽しんでいる。

「今回でスペインに来るのは 4 回目ですが、43 歳にして常に新しい発見や挑戦にコートの中で出会います。日本では 2 年前に JPT が始まり、私は 2 年連続（2017,2018）して MasterFinal(全日本) で優勝しました。また、2019 年のアジアカップでも、カタールとオーストラリアのチームを下し優勝しました。